

SEED (シード)

Vol.002
2022.7月

令和4年度「駒大生社会連携プロジェクト」の採択プロジェクトが決まり、1ヵ月が経ちました。今号では、5つのプロジェクトの進捗状況をメンバーからレポートをしてもらいました。

〔世田谷区部門〕

動画制作を通じた「せたがやの居場所」発信プロジェクト（経済学部：松本典子先生）

私たちは「NHKサービスセンター」の星野豊さんご協力のもと動画を制作し、せたがやの居場所を発信していくプロジェクトを進めています。星野さんからは、動画作成のレクチャーを受けた上で、企画構成、取材、編集作業を行います。このすべての工程を自分たちで進めていきます。

このプロジェクトの目的は、取材先との信頼関係を築き、動画を作成することで、企画力や交渉力、表現力を身につけることです。また、どのような言葉で伝えるのが効果的か、動画の発信者として、役に立つスキルを経験し、学んでいくことも目的としています。

今月は、7月2日に駒澤大学種月ホールで開催された「せたがや居場所サミット」に参加し、せたがやのさまざまな居場所について学びました。8月は、その中からどの居場所に取材するかを、ゼミ生と星野さんで話し合っ決めていきます。



〔世田谷区部門〕

P B L 型授業のモデル構築 – 世田谷発の起業家教育 –（経済学部：長山宗広先生）



プレゼン大会で優勝した学生チームと
三茶WORK㈱の起業家3名（右端：千田弘和代表、
左端：高橋秀紀氏、左から2番目：吉田亮介代表）

今年から経済学部で新規開講した「アントレプレナーシップ養成講座」では、本格的な問題解決型学習（PBL：Project Based Learning）、実践体験型PBL授業に取り組みました。履修者は、経済学部2年～4年の160名。

第1弾のPBLは、三軒茶屋駅近でコワーキングスペースを運営する三茶ワークカンパニー㈱と連携して、4月～5月に実施しました。PBLのテーマは、「三茶WORKにおける新規事業の提案」。14チーム（1チーム当たり11～12名）に分かれて、グループディスカッション・ブレインストーミングや現地調査等を実施し、最終回にて「ビジネスプラン」の発表会まで開催しました。

意欲的に取り組んだ受講生のうち3名（有志）は、当該支援制度を活用して、三茶WORKの提供する「起業スクール講座プログラム（8月開講、4ヵ月間）」へ派遣されることになりました。ここから本学発の学生起業家が誕生するかもしれません。

〔世田谷区部門〕

地域プロジェクトによる市民育ち—用賀と深沢における参加型調査研究（文学部：李妍焱先生）

8月27日と28日に開催予定の「用賀サマーフェスティバル」に向けて本格的に準備が始まりました。地域のNPOや他大学の学生、そして駒澤大学経済学部松本ゼミと協力して一からお祭りを作り上げていきます。「用賀レトロ」をテーマに据え、フード、ステージ、建築など様々なセクションに分かれて学生主体で進めています。毎週行われている全体ミーティングの際には次々と新たな仲間が増え、「つながり」の大切さを実感しています。

もう1つの活動拠点である「ふかさわの台所」では、本プロジェクトのキーパーソンである建築家の成見さんご夫婦、用賀サマーフェスティバル主催者の新井さんご夫婦と話し合い&お料理会を開きました。子どもたちともボール遊びするなど、交流を深めることができました。ほかにもゼミ生初主催イベントに向けての準備、台所に多く関わっている地域の大人たち（料理教室を主催している古屋さんや、せたこん主催者の小関さん）へのインタビューを実施するなど、「深沢」という地域への関わりを着実に深めています。



〔産官学連携部門〕

産学連携による新商品開発と新たな販路開拓の実践プロジェクト（経済学部：吉田健太郎先生）

6月25日から27日にかけて、本ゼミのプロジェクトに関わる先進事例となるSAGA COLLECTIVE様（佐賀県佐賀市）の現地調査を行いました。SAGA COLLECTIVE様は11社の異業種からなる組合組織であり、そのうち3社を訪問させて頂きました。そこでは、先進事例の成功要因に関する聞き取り調査や、企業訪問・工場見学をさせて頂き、各社が海外販路開拓において持ち前の技術力を柔軟に変化させていることがわかりました。

しかし、販路開拓に繋がる事例は増え始めましたが、実際に購買に繋げるためのマーケティングが不足しているという課題を抱えていました。そこで、産学連携によって私たちが生産者と市場を繋ぐ橋渡し役となりSAGA COLLECTIVE様のマーケティングの側面を支援し学習の場を作り上げることで、課題解決のお力添えができるのではないかと考え、この度コラボをさせて頂くことが決定致しました。

〔産官学連携部門〕

難民を知り、共生へ ～クルド人に学ぶ～（法学部：三竹直哉先生）

オータムフェスティバルで開催予定の、クルド人難民に関する映画『東京クルド』上映会に向けた準備をしています。具体的には、当日来場者に配布予定のパンフレット作成と、そこに掲載する内容についての学習です。



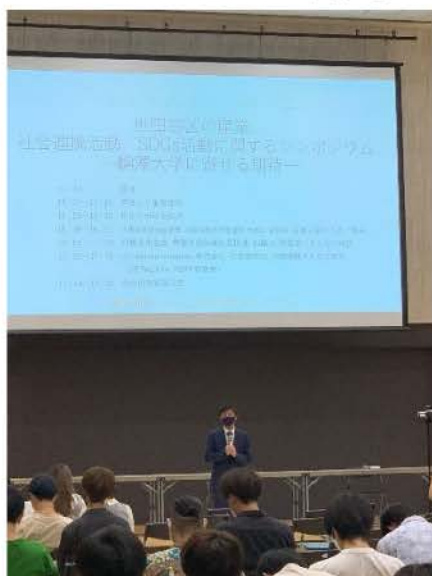
個人学習で文献から得た知識をグループでアウトプット・意見交換をしながら知識を増やしています。パンフレットは「難民とはどういった人たちか」を切り口として、1人でも多くの人に難民の存在と置かれている状況を知ってもらえるような内容を考えています。

〔社会連携センター：プロジェクト見学レポート〕

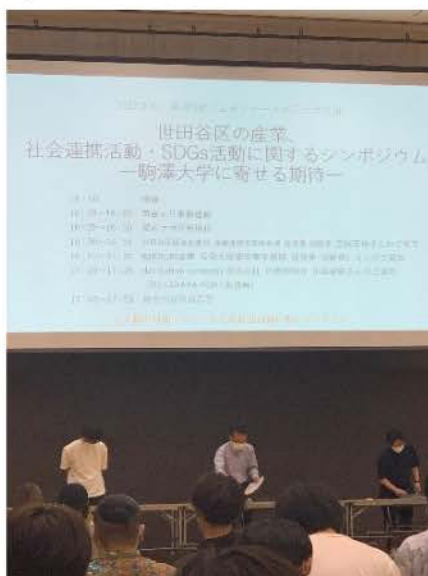
経済学部：山田 雅俊先生のプロジェクトの活動を見学しました。

SDGs部門で採択された、経済学部の山田 雅俊先生のプロジェクトが6月23日に行った「2022年度第2回新入生セミナー×現応ラボ企画 世田谷区の産業、その社会連携活動・SDGs活動に関するシンポジウム 一駒澤大学に寄せる期待」を見学しました。

駒澤大学が立地している世田谷区には多様な組織や企業が存在し、事業活動や社会連携活動を行っています。今回は現代応用経済学科の1年生に向けて、世田谷区経済産業部、昭和信用金庫、dot button company 株式会社から担当者の方がお越しになり、その活動内容をお話しされました。その中で、とくに学生の皆さんに在学中にやっておくべきこととして「“好奇心・持続性・柔軟性・楽観性・冒険心”をもって、たくさんの人と交流し、たくさんのことを経験してほしい」というメッセージが印象的でした。



現代応用経済学科ラボラトリ所長
長山 宗広先生によるご挨拶



登壇者の皆さま
(世田谷区経済産業部、昭和信用金庫、
dot button company 株式会社)



現代応用経済学科1年生に
に向けたメッセージ
フランス語で「よい旅を！」

7/30より、社会連携センターの事務室が「禅研究館3階 307室」に移転します。



駒沢キャンパス 禅研究館

7月30日（土）より社会連携センターの事務室が
禅研究館3階の307室に移転します。

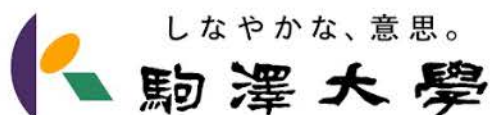
移転前：第1研究館 2階 1225室

移転後： 禅研究館 3階 307室

※メールアドレス、電話番号の変更はありません。

【MAIL】 social-collabo@komazawa-u.ac.jp

【TEL】 03-3418-9218



発行：駒澤大学
学術研究推進部
社会連携センター
(2022.07月)